

2021(令和3)年度 各館の特色ある活動報告

滋		賀	大	学
滋	賀	医	科	学
京		都	大	学
京	都	教	育	学
京	都	工	織	学
大		阪	大	学
大	阪	教	育	学
兵	庫	教	育	学
神		戸	大	学
奈	良	教	育	学
奈	良	女	子	学
和	歌	山	大	学
奈	良	先端科学技術大学院大学		
国	際	日本文化研究センター		
国	立	民族学博物館		

2022(令和4)年4月



令和3年度 (令和3年4月～令和4年3月)

滋賀大学附属図書館の特色ある活動報告

滋賀大学附属図書館の概要

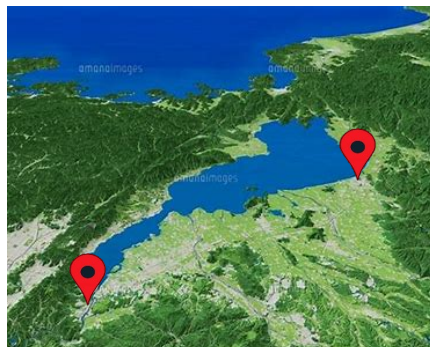
1. 本館

場所 彦根キャンパス (経済学部・データサイエンス学部)
蔵書 398,319 冊 (令和4年3月末)
入館者数 87,872 人 (令和3年度)

彦根キャンパス

2. 教育学部分館

場所 大津キャンパス (教育学部)
蔵書 265,186 冊 (令和4年3月末)
入館者数 41,635 人 (令和3年度)



大津キャンパス

重点領域1：知の共有

1. データサイエンスに関する資料の整備

本学には近畿地区の国立大学では唯一となるデータサイエンス学部がある。令和3年度は学生からのデータサイエンスに関するリクエストの図書について、積極的に採用し、購入を進めるとともに、データサイエンス学部から選出された附属図書館委員会委員による選定のもと、データサイエンスに関する電子リソースを充実させることで、データサイエンスに関する資料の充実を図った。

重点領域2：知の創出

1. 個別企画展示の実施 (彦根・大津両キャンパス)

本館・教育学部分館にて、「アツイ本特集」、「レポート・卒論作成に役立つ本」等、時宜に即したテーマで実施し、図書館員のアイデアと多種多様な蔵書を活かした企画展示を行った。

《その他の展示テーマ》

「防災について考えよう」、「巣ごもり読書—コロナ禍でも毎日充実させよう!」、「生物多様性について考える」、「図書館資料はこう探す!」、「新入生におすすめの図書」等



個別企画展示「アツイ本特集」

2. 教科書展の開催 (大津キャンパス)

教育学部分館 (大津キャンパス) では、『『南洋群島国語読本』とパラオに残る日本語』をテーマに、本学教育学部の松丸真大教授監修のもと、教科書展を実施した。



教科書展

3. 所蔵貴重書の公開展示（彦根キャンパス）

本館（彦根キャンパス）では、19世紀～20世紀前半の経済学者ジェヴォンズ、ワルラス、マーシャル、パレートに関する本学所蔵の貴重書を展示した。



貴重書展示コーナー

4. リユース本の活用（大津キャンパス）

教育学部分館（大津キャンパス）にて、随時「持ち帰りコーナー」を設置していたことで、教職員から提供された不要図書や図書館の除籍図書のリユースを推進し、学生の図書館や図書への興味を高める契機や勉強交流の場として、有意義な活動となった。

5. 学生を対象とした文献取り寄せサービスの費用支援を実施（彦根・大津両キャンパス）

本館・教育学部分館ともに、学生が文献取り寄せサービスを利用する際の費用を図書館予算で負担している。料金負担内容の詳細は各館で異なるが、本館においては新型コロナウイルス感染症対策の一環として、対象学生を限定していた例年の運用から、全学生へとサービス範囲を拡大した。

重点領域3：知の媒介

1. 職員研修への参加

- | | | |
|-----------------|-------------------------|----|
| ・公文書管理研修Ⅰ | ・第19回日本古典籍講習会 | |
| ・漢籍担当職員講習会 | ・NII学術情報基盤オープンフォーラム2021 | |
| ・西洋社会科学古典資料セミナー | ・2021年度オープンアクセス新任担当者研修 | など |

新型コロナウイルス感染症への対応

1. 「QRコード」による座席の識別システムの導入

本館・教育学部分館ともに、学習スペースに「QRコード」による座席の識別システムを導入し、ソーシャルディスタンスを確保するとともに座席の利用状況の把握を試みている。また、座席の間にパーテーションを設置することで、飛沫感染の予防にも努めている。



学習スペース

2. 学生を対象とした郵送サービスを実施

本館・教育学部分館ともに、本学学生を対象として、所蔵資料の郵送貸出（送料は学生負担）及び複写資料の郵送による提供を行っている。

3. 図書館ウェブサービスの充実

本学学生・教職員がオンラインで貸出期限の延長や予約を行えるようにシステム改修を行った。

重点領域

1

知の共有：蔵書を超えた＜知識や情報＞の共有

● 電子書籍の整備強化

電子書籍「Maruzen eBook Library」の試読サービスを実施（2021年10月-11月）
教員による学生用図書の選定対象に電子書籍を追加
→ 合計108点の電子書籍を購入

● 教養図書の充実

文理融合型教育プログラム STEAM 教育への支援
滋賀医大学生新聞「SUMS TIMES」スタッフの選定による教養図書の購入
→ 図書展示「世界の教養」を開催
数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定プログラムへの支援
情報総合センター教員の選定による情報学分野図書の購入
→ 図書展示「情報分野の本、あつめました。」を開催
学生 web 選書
学部学生13名が参加し、web 書店を通して図書館に置く本を選定
→ 図書展示「2021 学生 web 選書」を開催

● 著作権に関するサポートの提供

「授業目的公衆送信補償金制度」に関して学内におけるとりまとめを担当
著作物利用に関する情報提供を行い、個別相談に対応
全学対象「研究倫理教育研修会：いま、押さえておきたい著作権」をオンライン開催（外部講師2名）

● 情報発信の強化

Twitter の運用を開始（2022年2月）



Twitter 広報



学生の作成による展示ポスター

重点領域

2

知の創出：新たな知を紡ぐ＜場＞の提供

- 環境整備・スペース転用

開架雑誌を集密に移し書架を撤去したあとのスペースを閲覧室として改修

窓際カウンター席、柱回り PC 席を新たに設置し、そのほかはコロナ対策のため間引きした座席を配置

- 新入生ビブリオバトル

12/14 開催 ⇒ 12 名参加

新入生 3 名と教員 1 名がおすすめ本を紹介

- 図書展示

教職員との連携、学生協働、学内イベント・セミナー連携、
他機関連携をテーマに年間を通じて図書展示を実施

（令和 3 年度 計 12 回実施、うち 3 件はミニ展示）



重点領域

3

知の媒介：知の交流を促す＜人材＞の構築

- 情報リテラシー教育の実施

遠隔のみ、対面のみ、遠隔と対面の併用 3 つの形式による講義や研修会を実施

- ✧ 学部生対象（6 件・32 回）

・情報科学（医・看護学科 1 学年） ・看護研究方法論（看護学科 2 学年）

・アカデミックライティング（医学科 1 学年） ・アカデミックスキル（看護学科 1 学年）

・看護学科 3 学年文献検索講習会 ・脳神経内科臨床実習 文献検索講習会（医学科 5 学年）

- ✧ 大学院生修士・博士課程対象（3 件・4 回）

・医学総合研究特論（医学専攻博士課程） ・看護学研究方法論Ⅰ（看護学専攻修士 1 年）

・看護学研究方法論Ⅳ（看護学専攻修士 1 年）

- ✧ 職員対象（3 件・7 回）

・看護部研修会 ・研究倫理教育研修会 ・事務職員各課ローテーション研修

2021（令和 3）年度 特色ある活動報告

2022 年 4 月
京都大学図書館機構

1. オープンアクセスの推進と研究活動支援

(1) 近畿地区 5 大学による研究データ管理に関する書籍翻訳事業の実施

大阪大学附属図書館、神戸大学附属図書館、奈良教育大学図書館、奈良女子大学学術情報センター、京都大学図書館機構の共同事業として、海外の大学および大学図書館における研究データ管理（RDM）支援事例について書かれた書籍（“Engaging Researchers with Data Management: The Cookbook”（2019））を日本語化する事業を実施した（2021 年 9 月～2022 年 1 月）。成果物「データ管理で研究者と協力するために：クックブック」をウェブ公開し、国内他大学の利用にも供することで、各大学図書館の RDM 支援実践への足がかりとした。<https://doi.org/10.14989/267606>

(2) 図書館機構講演会「オープンデータとしての学術論文」の開催

2022 年 2 月 15 日に国際シンポジウムを実施した。参考文献リストのオープンデータ化（オープン・サイテーション）や論文本文の機械可読性の実現等について、ヨーロッパの最新の取組みと新たな大学図書館の役割を紹介し、学内外の図書館職員・教職員、研究機関・企業関係者から 109 名の参加があった。

(3) 図書館機構オープンアクセス推進事業成果報告会の開催

2022 年 3 月 10 日に、「オープンアクセスによって広がる教育・研究の可能性」と題して、京都大学オープンアクセス推進事業の意義と成果を報告する催しを行った。研究者が、学術情報リポジトリやデジタルアーカイブを活用することにより教育・研究がどう進展したのかという事例報告を行い、オープンアクセス推進事業の到達点と成果を具体的に報告する会となった。

(4) 研究支援掛の設置

図書館機構将来構想に掲げるオープンアクセスを推進し、研究活動を支援するという目標を実現するため、附属図書館に「研究支援掛」を設置した（2021 年 4 月）。研究データを管理・公開するための支援や、研究データを京都大学学術情報リポジトリ（KURENAI）から公開するための支援等を実施する。

(5) 粗悪学術誌についての学内説明会の実施

複数部局の教授会等において、図書館機構長が粗悪学術誌に関する注意喚起を行い、特に若手研究者への指導を要請した。また、全学の図書館が研究者からの粗悪学術誌に関する問合せに適切に対応するため、図書職員向けオンライン説明会を 2 回開催した。

(6) 教員著作の公開事業の実施

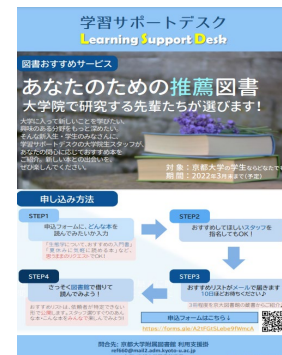
本学教員の著作図書を機関リポジトリから公開する事業（2 か年計画）を実施した。

教員が公開を希望する図書（前年度調査）を候補として出版社に要請を行い、同意が得られた 78 タイトルの書籍の電子化・公開を行った。

2. 学修・教育支援の推進

(1) 「図書おすすめサービス」の実施

学習サポートデスクのスタッフが依頼学生の興味関心に相応しい図書を推薦する「図書おすすめサービス」を実施した（2021 年 6 月～2022 年 3 月）。



(2) コロナ感染状況に対応した各種サービス

前期は、オンライン授業への対応と学習環境の向上として、双方向オンライン授業用に発話が可能な個室を 5 室設置し（2021 年 5 月）、試験期対応として平日の開館時間を、それまでの 9 時～19 時から 9 時～21 時に変更した（2021 年 7 月～8 月）。後期は、対面授業が再開したことに伴い、平日の開館時間を 10 月に 9 時～20 時に、12 月には 9 時～22 時に段階的に延長した。11 月には、休止していたラーニング・コモンズでのグループ学習や、視聴覚資料を利用できるメディア・コモンズの利用を再開した。また、2022 年 3 月に入退館ゲートを更新し、退館時の認証機能を追加して、在館者等を把握できるようにした。



3. 豊富な学術資源の活用と社会貢献

(1) 大惣本の整理事業の実施

附属図書館が所蔵する江戸時代の貸本屋大野屋惣八店旧蔵書（通称「大惣本」）のうち、目録情報が未整備となっている 8,500 冊の整理を開始した。令和 3 年度は田嶋財団事業助成により 2,500 冊の目録情報を作成し公開した。

(2) 貴重資料の一般公開と電子化の推進

京都国立博物館にて開催された「京の国宝」展に、附属図書館が所蔵する国宝『今昔物語集』を出品した（2021 年 7 月～9 月）。貴重資料の電子化については、附属図書館が所蔵する「菊亭文庫」「奇兵隊日記別冊絵図」や文学研究科が所蔵するサンスクリット写本コレクションなど、人社系資料を中心とした合計 1,075 タイトルの電子化・公開（一部公開準備中）を行った。また、国文学研究資料館の新日本古典籍総合データベースに「富士川文庫」2,033 タイトルのメタデータを提供し、京都大学貴重資料デジタルアーカイブの画像を参照できるようにした。

(3) IIF 執行委員就任

2022 年 1 月より、京都大学図書館機構が IIF コンソーシアムの執行委員会（Executive Committee）の委員に就任した。IIF コンソーシアムは、デジタルアーカイブ等における画像利用の標準化・相互運用性確保を目指すコミュニティで、

世界の多くの機関が採用する画像アクセスの国際的な枠組を提供する組織である。

4. 全学図書館機能の基盤整備

(1) 図書館機構・附属図書館の「第4期中期目標・中期計画期間における全学機能組織のミッション及び方向性」の決定

図書館機構の新たなミッションと方向性が定められ、「京都大学オープンアクセス方針」に基づく研究成果や資料の電子化と公開に加えて、電子リソースを含む学生用図書の拡充やアクティブラーニングに対応する学修支援等の実現が重点項目に盛り込まれた。<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/about/1385163>

(2) 基本図書館機能における機能ごとの目標基準（到達の目安）の策定

「京都大学図書館機構将来構想 2020-2027」に基づき、各部局図書館等（専門図書館）が備えておくべき専門図書館機能ごとの目標基準を策定した。各部局図書館はこの目標基準を目安として、第4期中期目標・中期計画期間中に自らの達成水準を決定し、実現に向けて取り組み、専門図書館機能の充実拡大を目指す。

<http://hdl.handle.net/2433/269211>

令和3年度 京都教育大学附属図書館 特色ある取り組み

1. 図書館利用・読書啓発の働きかけ

平成27年より「わくわく！KYO²ライブラリー図書館活性化プロジェクト」をスタート。

図書館に行こう！→図書館を知ろう！→図書館で過ごそう！→図書館を使おう！→図書館をひろげよう！

●「図書館に行こう！」（＝親しみやすい場所にする）

➤就職担当部署との連携

・就活ゼミ、就職セミナーを附属図書館研修・セミナー室で実施

●「図書館を知ろう！」（＝学生との距離を縮める）

➤学修支援員の配置（平成27年10月～継続）

理科、数学教育専修の大学院生をラーニング commons に配置。

対面授業実施中の月～金の午後に実施のほか、オンライン授業実施中の対策として
オンライン相談も開始。

➤リクエストの強化

☆話題書の購入「リクエストと投票で話題の本を読もう」

学術研究・教養目的以外の学生からのリクエストおよび図書館員が選定した新刊、話題書等を対象に利用
者が投票。得票数の高いものを購入。授業期間中に毎月実施。

☆選書ツアー（ブックハンティング）の実施

前期はオンラインのみ、後期は書店とオンラインのハイブリッド実施となった。

10名が参加、117冊購入。

☆通常リクエストの推進

前年水準を維持（155件）

●「図書館で過ごそう！」（＝館内の環境整備、サービス向上）

➤日曜開館の継続実施

試験期の日曜日を開館 前期2回、後期2回実施。

➤館内貸出物品の整備

消毒などの対策を行い、小型扇風機やブランケットの館内貸出を維持。

●「図書館を使おう！」（＝資料・施設の利活用）

➤授業等と連携した図書展示等

・保育士試験対策コーナー（11/11～12/11）

・ブックレポート応援コーナー（5/13～6/17、11/2～11/25）

授業担当教員に協力し、ブックレポート課題向け図書およびそのレポートの展示

・中庭コンサート（5月27日）

「器楽基礎演習」の授業成果発表を再開。

➤企画展示室等の利用による展示等の開催

学生や教職員による教科・学習研究等に関連する企画展示：2件



➤ 推薦投票企画「学生に観てほしい、映画のすすめ」

視聴覚資料の充実と活用をはかるため、教員から推薦映画を募集し、興味を持った映画に投票してもらう企画を実施。未所蔵分を購入した。(10月推薦募集、11月投票)

●「図書館をひろげよう！」(＝他館、他部局等との連携)

➤ 京阪奈三教育大学との連携

➤ 府立図書館との連携

京都府立図書館を中心とする府内図書館連携 K-Libnet に参加。

2021 年度実績：貸出 53 件、借受 57 件

2. 新型コロナウイルス感染防止対策

対面授業とオンライン授業を交えた授業形態を受け、前期中は郵送貸出を継続実施。(24 件申込、69 冊貸出) 一方で夜間・土曜開館も維持し、オンライン授業等の受講場所としても利用された。また、後期から縮小していた書庫の閲覧席を再開し、開架閲覧室の一部でも配置変更により距離を維持しつつ閲覧席数の制限を解除した。

緊急事態宣言解除後、卒業生等の学外者に対し事前予約の貸出に限り 7 月から再開。また、11 月 10 日からは事前予約なしの閲覧等を再開したが、まん延防止等措置対応として、1 月 26 日から 3 月 23 日まで再度入館制限を行った。

3. 利用者教育

●初年次教育科目における新入生図書館ガイダンスの実施

Kyokyo スタートアップセミナー(1 回生前期)において、対面授業形式で図書館ガイダンスを実施。(5 月 24 日～6 月 7 日 全 9 回実施、13 専攻 322 名)

●各種講習会の開催

- ・論文検索講習会、データベース検索講習会を人数限定・予約制で実施。
- ・オーダーメイド講習会(オンライン・対面)を実施。

4. 地域貢献

●読み聞かせ会「えほんのもり」

児童書コーナーでの幼児教育科の学生による絵本カードの作成、今月の絵本紹介など。新型コロナウイルス対策で1年以上休止していた学生による読み聞かせ会(月2回)を10月から12月まで予約者限定で再開。

●中学生の「職場体験」事業への協力

10月に京都市立藤森中学校より「事業所インタビュー」の生徒6名受入。

●第3回教育展(教育資料館共催)

『大学の授業 ～国文学科から国語領域専攻～』を附属図書館企画展示室で展示。

展示期間:11月12日(金)～11月28日(日)

5. その他

●教育資料館「今月の逸品」 展示協力 附属図書館 1 階渡り廊下

「草木乾腊法」などを展示。(2 ヶ月毎展示替)



京都工芸繊維大学附属図書館 令和3年度特色ある活動の報告

1. ML(ミュージアム・ライブラリー)連携

● ML(ミュージアム・ライブラリー)連携企画展示

平成 30 年度より ML 連携企画と題して、美術工芸資料館と附属図書館が連携し企画展示を実施している。

- ・企画展示「岸和郎:時間の真実 Waro KISHI_TIME WILL TELL」
(令和 3 年 6 月 21 日～9 月 10 日)

著作や蔵書、作品掲載資料を展示した。
また、展覧会を機に蔵書を寄贈いただいた。



- ・企画展示「美術の教育/教育の美術」
(令和 3 年 9 月 27 日～11 月 6 日)

製糸会社商標など、蚕業関係資料を展示した。
掛図の商標はデジタルサイネージを使用した展示を行った。



- ・企画展示「牧野克次と霜鳥之彦 ー洋画家の多彩な顔ー」
(令和 4 年 2 月 21 日～4 月 23 日)

図書館が所蔵する牧野克次、霜鳥之彦の作品が掲載された
図書館資料の展示を行った。



● シンポジウム「学術コレクションと大学 ー保存と活用ー」の開催

令和 4 年 3 月 6 日（日）に ML 連携企画シンポジウム「学術コレクションと大学-保存と活用-」を開催した。

大学の教育・研究に資する個人コレクションと大学史を示す資料など「学術コレクション」の意義と価値をあらためて確認するとともに、大学図書館とミュージアムがその受け皿として機能することの利点と問題、作品や資料の保存と活用について、大学ミュージアムに携わってこられた講師を招いて事例を共有し、意見交換が行われた。

当日の様子は、本学附属図書館の YouTube チャンネルにて期間限定で公開。



● 『特色あるコレクション』ホームページ掲載

前身校である京都高等工芸学校と京都高等蚕業学校から引き継がれた貴重な資料を、『特色あるコレクション』として、ホームページに掲載し紹介を始めた。
図書や雑誌のほか、図案、図譜、標本、見本、素材、掛図、巻物など多岐にわたる資料が教材として活用された歴史を、関係教員の協力によりテーマごとにまとめた。

2. 情報発信、イベントの開催

● 「学生選書」の実施

令和3年11月15日(月)～11月30日(火)にかけて、学生ボランティアによる「学生選書」を実施した。
書店店頭での選書に加え Web 選書も可能とし、参加学生 22 名によって 77 冊の図書が選ばれた。
学生から選書した 1 冊についてお薦めコメントを提出してもらい、図書館 Twitter にてコメントを順次紹介している。



● 図書館総合展ポスターセッションへの参加

第23回図書館総合展ポスターセッションで、附属図書館の特色あるコレクション、本学大学史を紹介する図書館展示室、美術工芸資料館との連携企画など、特徴的な活動について発信した。

● 寄贈に合わせた企画展示

令和3年7月から8月にわたり、京都市の指定有形文化財「旧川崎家住宅」で開催された体験型エキシビジョン「GUCCI Bamboo House」にて展示された書籍が、「ケリング ジャパン グッチ デイビジョン」より寄贈された。

寄贈された書籍は、アートブックや歴史書に加え、竹に関する科学書など 370 冊にのぼり、一部書籍の企画展示を行った。



3. 学修支援・研究支援

● 図書館利用ガイダンス

学部新入生を対象に各課程の授業科目の中で、図書館職員による図書館利用ガイダンスを実施した。
主に OPAC 及び各種データベースを使った情報検索の説明と実習を行った。

2021(令和 3)年度大阪大学附属図書館

国大図協ビジョン 2025 に基づく特色ある活動 近況報告

重点領域 1. 知の共有: <蔵書>を超えた知識や情報の共有

目標 1-1: 教育研究成果の発信、オープン化と保存

■ 附属図書館研究開発室に専任教員着任

9 月 1 日、附属図書館研究開発室に、総長裁量ポストとして専任教員（助教）が着任した。10 月より、大阪大学サイバーメディアセンター兼任となり、学内関連部署との橋渡しの役割を担いつつ、オープンアクセスを含めたオープンサイエンス推進の体制整備に取り組んでいる。

■ 大学のオープンサイエンス推進体制への参与

11 月、附属図書館長である研究・情報担当理事を室長とした「オープンサイエンス推進室」が大学に設置された。全学の研究・情報関連部局の教員や事務職員で構成されており、図書館からも教員と職員が参加している。研究データ管理ポリシー策定、研究データ管理基盤・公開基盤の整備に向けて活動する。

■ OUDX 推進室会議に参画

2022 年 4 月、附属図書館長である研究・情報担当理事を室長とした「OUDX 推進室」が大学に設置された。関連会議に図書館からも教員と職員が参加し、OUDX 構想の実現に向け活動する。

■ リポジトリ登録支援システム稼働開始

6 月 1 日、本学の教員・研究員の論文について、機関リポジトリ「大阪大学学術情報庫 OUKA」への登録申請等をサポートするシステムであるリポジトリ登録支援システムが稼働を開始した。本システムでは、研究者による自身の論文の一覧表示、各論文の本文ファイルアップロード、出版社の著作権ポリシーの確認をすることができる。また、図書館の登録作業や登録依頼作業の軽減ともなる。

■ APC 支払実態把握調査

2021 年 4 月よりオープンアクセスのための OA 出版料（APC）の支払実態把握調査を実施（全学に財務会計システムへの入力協力を依頼）。調査結果の分析を開始している。

■ 新任教員研修

図書館・経営企画オフィス URA 部門共催の新任教員研修プログラムとして、「オープンアクセスを巡る状況と大阪大学におけるオープンアクセス支援」を実施。前期はオンライン開催、後期は学内の授業支援システムに動画を掲載し、期間中受講可能として実施した。（受講者数：前期 40 名、後期 49 名）

目標 1-3: 知識や情報の発見可能性の向上

■ 図書館業務システムの更新（2022 年 10 月）に向けて、検討を進めている。

■ ディスカバリーサービスの検証

現在導入しているものとは別の製品について、トライアルの実施と検討メンバーによる検証を行い、利用価値および価格面において評価・検討を行った。

■ 学習支援活動

感染防止対策をとりながら、全館で、図書館職員及びラーニング・サポーターによる講習会・セミナー等をオンライン・対面により多数実施している。

■ 研究支援活動

Nature Masterclasses オンラインコース（研究推進部・経営企画オフィス URA 部門と共催）
受講期間 2022 年 2 月 10 日（木）～2023 年 2 月 9 日（木）

■ 電子ブック試読による選書

10 月～12 月、試読による電子ブック選書を実施し、443 タイトル(約 490 万円)を選定した。

■ 除却資料の個人への売却譲渡（試行）を実施

153 名に 741 冊を 1 冊 100 円で売却した。

重点領域2. 知の創出:新たな知を紡ぐ<場>の提供

目標 2-1: 知を創出する場の拡大・整備・提供

■ 環境整備

感染防止対策のため閲覧席利用を 30～50%に減らしているものの、グループ学習エリアを個室利用に変更し、また、座席間の距離を十分保つ等の工夫を重ね、利用者サービスを継続している。

12 月～3 月、総合図書館において補正予算により空調機の更新工事を実施した。

本学のコロナ対策支援の一環で各館の個室に空気清浄機を設置することができ、1 月には個室の利用を再開した。

■ ネーミングライツ

2022 年 4 月、理工学図書館に図書館として 2 件目のネーミングライツを導入した。自己収入の拡大により、更なる学習・研究環境向上を目指す(2021 年 2 月に 1 件目を導入済み)。

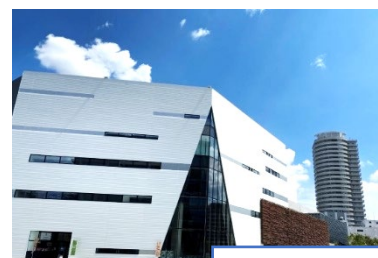
■ 利用者サービス拡充

2022 年 4 月、各館利用内規を一部改正した。貸出冊数増加、利用者票交付年齢引き下げ等により、サービス内容の拡充を図る。

目標 2-2: 社会・地域に開かれた知の創出空間の提供

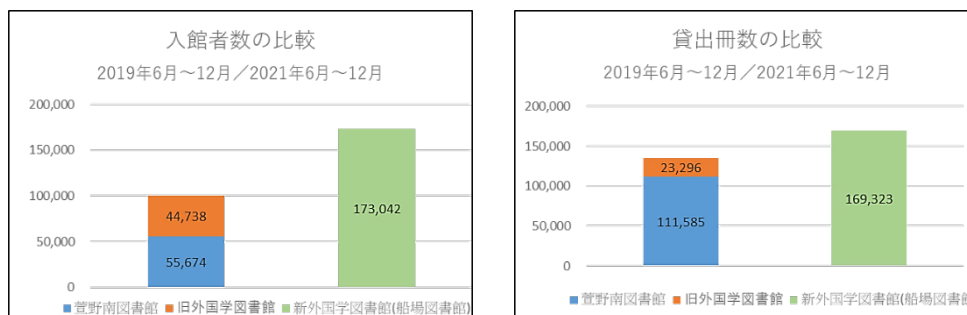
■ 箕面市立船場図書館（外国学図書館）の運営

2021 年 5 月、市立図書館と大学図書館機能を有する「箕面市立船場図書館」として開館し、大阪大学が箕面市の指定管理者として運営を開始した。6 月 21 日の通常サービス開始以来、2019 年度比（6 月～12 月）で 2 倍近くの入館者数となるなど、箕面市立図書館の中でも利用の多い館となっている。学内他部署及び箕面市と連携し、幅広く活動を展開している。



外国学図書館

移転前後の利用状況比較：



主な活動：

- ・ 教員との連携企画：
デンマーク、ハンガリー、台湾の絵本読み聞かせと各国文化を知るイベント
- ・ 市民向け情報リテラシー講座：
情報検索や図書館活用法をテーマに生涯学習センターと連携開催
- ・ 教育委員会との連携：箕面市立の小学校を対象とした図書館見学、リモート授業
- ・ 障がい者サービス：リモート対面朗読
- ・ 図書展示：
市蔵書・大学蔵書のコラボ展示、生涯学習センター生涯学習講座のテーマ関連展示等

■ 寄附者等特別利用に関する内規の制定

2022 年 4 月、本学及び図書館に対する高額寄附者に図書館特別利用を認める内規を制定。寄附者は一般学外者より充実した図書館利用が可能となる。内規を整えたことで、図書館の社会連携、また、大学及び図書館への寄附促進に貢献する。

重点領域3. 知の媒介:知交流を促す<人材>の構築

目標 3-1:多様な人材との協働

■ ラーニング・サポーター (TA) への研修

毎年、各館のラーニング・サポーターの学習支援の質の向上・維持を目的として、本学教員による研修を継続実施している。今年度は全研修をオンライン実施とした。

■ 経営企画オフィス URA 部門との協働（重点領域 1 目標 1-1 に記載）

事業共催や継続的な情報共有等により連携を強めている。

■ 大学のオープンサイエンス推進体制への参与（重点領域 1 目標 1-1 に記載）

目標 3-2:国立大学図書館職員の能力向上

■ 研修開催

- 大阪大学職員研修「大阪大学の研究者を理解する：図書館サービス向上のために」(オンライン)
日時 2021 年 12 月 16 日 (木) 15:10～16:50 (参加：48 名＋事後動画視聴 9 名)
講師 エルゼビア・ジャパンより 2 名、阪大経営企画オフィス URA より教員 3 名
- 国大図協地区協会助成事業「図書館の防災を考える：実践的危機管理訓練の有用性」(オンライン)
日時 2022 年 1 月 25 日 (火) 14:00～16:00 (参加：111 名＋事後動画視聴(のべ)51 名)
講師 大阪大学安全衛生管理部 山本仁教授

令和 4 年 4 月 18 日
大阪教育大学附属図書館

2021 年度 大阪教育大学附属図書館の特色ある取り組み (2021 年 4 月～2022 年 3 月)

1. 新型コロナウイルス感染症対策の工夫

- 1) 昨年度に引き続き、一定条件を満たす学生に、大学の送料負担にて貸出希望図書を郵送するサービスを行った。(5 月 18 日～6 月 18 日)
- 2) 夏季休業中、柏原本館において教員採用試験対策、教育実習中の資料利用のため、土日祝の特別開館を 2 年ぶりに実施した。
- 3) 引き続き、閲覧室等の日常的な消毒作業および、密接を避けるための座席利用制限を継続している。
- 4) グループ学習室やラーニングコモンズを個人自習室として開放している。

2. デジタル教科書への対応

小学校における 2024（令和 6）年度の次期教科書改訂にあわせた、デジタル教科書の本格導入を踏まえた、全学的普及の取り組みに協力した。

1) 教員研修（全学ファカルティディベロップメント事業）

学内教員にデジタル教科書の特徴的な機能を紹介し、ICT 活用法に関する理解をより深めていただく全学 FD 事業について、企画から運営まで参画し、会場や機器提供等の協力を行った。(6/15～1/27 全 7 回)

2) 国立大学図書館協会地区協会助成事業『大学図書館職員のための「デジタル教科書による授業運営の現状と課題」オンライン研修会』の実施

日時：令和 3（2021）年 12 月 7 日（火）13：30～15：20（110 分）

研修動画の大阪教育大学オープンエデュケーションでの一般公開：

<https://opedu.lib.osaka-kyoiku.ac.jp/course/view.php?id=49>

アンケート結果：特に教員養成系大学において、本研修テーマへの関心の高さが伺え、講師の教員と学生の発表が好評であり、本取り組みが参考になったとの感想があった。

3. 大阪市との連携

本学と大阪市が締結した「新・大阪市総合教育センター（仮称）及び連合教職大学院合築施設設置に向けた基本協定」に基づき、本学天王寺キャンパスに建築される新合築棟「大阪

アドバンスト・ラーニング・センター（仮称）」（10 階建）に入居予定の大阪市教育センター図書室との連携を図った。

●整備スケジュール

- ・ 令和 3（2021）年度：基本設計・実施設計
- ・ 令和 4（2022）年度：実施設計・建設工事
- ・ 令和 5（2023）年度：建設工事
- ・ 令和 6（2024）年度・春：開設予定

4. 授業支援

- 1) 柏原本館にて、オンラインによる 3 年次向けの図書館ガイダンスを実施した。
- 2) 天王寺分館にて、オンラインによる初等教育教員養成課程（夜間）1 年次への図書館ガイダンスを実施した。オンデマンドで動画配信し、検索の課題提出を課した。

5. 学習支援

- ・ サポートスタッフ（本学大学院生）をカウンター近くに配し、学習支援を行った。【前期授業期間：週 2 時間程度、計 2 名／後期授業期間：週 4 時間程度、計 4 名】また、「レポートの書き方」などの資料を作成した。今後、公開予定。
- ・ 音声付動画による図書館ツアーや蔵書検索の案内を図書館ホームページに掲載した。

6. 教育資源のオープン化

「我が国における教育の充実と文化の発展に貢献し、地域と世界の人々の福祉に寄与する。」という大学の使命を果たすため、教育大学として保有する教育資源を広く国内外に発信する環境として 2020 年度に構築した「オープンエデュケーションプラットフォーム」にかかる体制の整備を進め、複数のコースを公開した。誰もが自由にアクセスできる教育資源以外に、教員免許状更新講習のオンラインコースも収載し、受講完了者にデジタルバッジを発行する等の取り組みを行った。

7. イベント

- ・ 5 月 17 日～6 月 18 日館内展示「学校安全特集」を実施
- ・ 音声合成ビデオ作成システムの学内研修会を 12 月 3 日に開催した。

兵庫教育大学附属図書館 令和3年度活動報告

1 国立大学図書館協会（近畿地区）助成事業の実施

学生へのライティング支援をテーマとした大学図書館職員研修企画「びんせんとペンごっこ：手紙ではじめるクリエイティブ・ライティング」を開催。本イベントは、教材文化資料館（附属図書館内）の令和4年度前期企画展の特別イベントとして実施するもの。

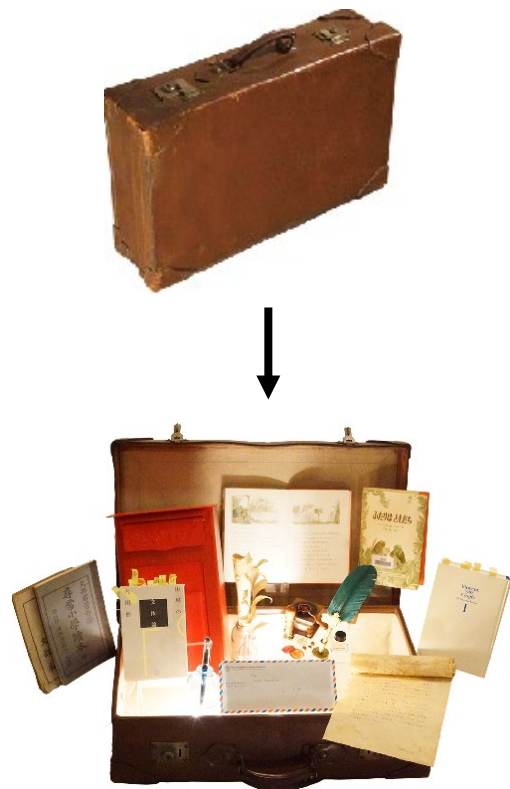
- ・内田樹氏（哲学者・思想家）トークライブ（2022年5月26日）
- ・哲学カフェ（2022年5月26日）
- ・届かない手紙コンテスト（2022年4月1日～）
- ・旅する手紙展（2022年4月1日～）※1

※1 教材文化資料館企画展の展示物の複製をスーツケースに収め、希望する大学図書館に送付する巡回展示。

イベントページ <https://www.blueclass.live/vincent>



企画展フライヤー



旅する手紙展

2 図書館改革プラン（第二次）の策定

当館では、附属図書館の理念と行動指針（平成 27 年策定）に基づき、平成 28 年に第 3 期中期目標期間における図書館の改革プランを策定し実行してきた。今回、国立大学図書館協会ビジョン 2025 を踏まえながら、第 4 期中期目標期間を見据えた改革プランを策定した。

- ・附属図書館の理念及び行動指針

<https://opac.hyogo-u.ac.jp/drupal/?q=ja/node/56>

- ・附属図書館改革プラン（第二次）

<https://opac.hyogo-u.ac.jp/drupal/sites/default/files/reformplan2022-.pdf>

3 非来館型サービスの充実

・紙ベースでの申し込みが残っていた図書館サービス（学生希望図書申請・現物貸借依頼・購入雑誌希望照会）のオンライン化した。

・利用者ニーズに基づく電子ブックを整備するため、Marzen eBook Library の試読サービスを実施し、その利用統計に基づく購入選定を行った（34 点購入）。

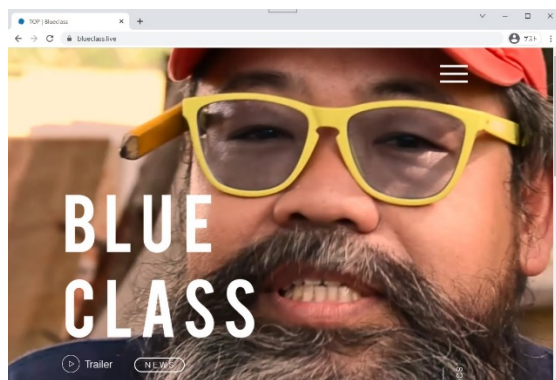
4 蔵書評価の大綱を策定

書架狭隘化への対応として、第 4 期中期計画期間における蔵書の構築（除架）計画を整備した。

5 BLUE CLASS（青空教室事業）

（1）BLUE CLASS ONLINE 企画スタート

対面開催を想定していた青空教室企画 BLUE CLASS について、コロナ禍を踏まえ、オンライン開催に企画を切り替え開催した。<https://www.blueclass.live/>



▲ウェブサイト作成ツール WIX を使い、BLUE CLASS ウェブサイトを構築



▲トークライブ「家族のブリコラージュ」の様様

(2) イベントづくりをテーマとした授業協力

「環境とイベントをデザインする」をテーマとしたクラスセミナー（初年次セミナー）に、図書館職員が授業協力者として、オンラインにより参加（全 16 コマ中、15 コマに参加）し、BLUE CLASS 等図書館の取組を紹介するとともに、学生主体のイベントづくりをサポートした。



▲学生企画の星空上映討論会

6 リポジトリシステムの JAIRO Cloud へ移行

平成 20 年より Dspace を運用してきたが、この度 JAIRO Cloud へ移行し、3 月 16 日に正式公開した。

7 教材文化資料館企画展

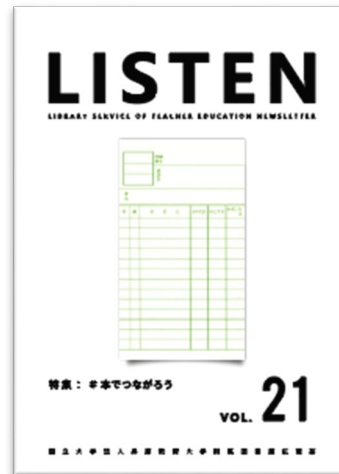
教材文化資料館は、附属図書館のなかにある小さな展示室。令和 3 年度後期企画展は「おしえて！オノマトペ：音や様子をズバツと伝える魔法のことば」を開催した。



7 広報誌 Listen 刊行

年2回（春・秋）発行する図書館広報誌。https://opac.hyogo-u.ac.jp/drupal/?q=ja/node/21

Vol. 21 では、コロナ禍によりオンライン授業が常態化するなかで、学生同士の繋がりを演出するため、「本でつながろう」と題する学部1年生の書評特集を組み、授業等で活用された。



本でつながろう

エッセイ・ノンフィクション

1 『僕の隣で勝手に幸せになってください』

① 吉井ブルー
② 2008
4冊

ひとりの男性作家が様々な観点から女性への理解や関係性、日常生活に関する面々が描かれています。共感できるものも多く、人間関係や恋愛、私生活の悩みがある時この本の言葉に共感をもたらしています。

※写真家・恋愛・私生活・悩み

2 『イチローの流儀』

① 4月書局
② 2009
4冊

野球界のレジェンド「イチロー」のグラウンド内外での考え方や姿勢について知ることが出来る本。天才的なプレーは素晴らしい事象があるからこそできる技。本誌の専載というものを私は学んだ。

※イチロー・スポーツ・野球・本誌

3 『カキフライが無いなら食なかつた』

① せきしろ × 文芸春秋
② 2013
4冊

この本はせきしろさんと文芸春秋の自由編集制度である。題名にまどめと、「テノシメ」が描かれているほど（笑）から「タイムカプセル三日で帰った」までが書かれる自由編集制度である。（山口未羽）

※自由編集・自由編集・自由編集

4 『読速123キロ、僕は40歳でプロ野球選手に挑戦した』

① ちろすけ (360°モニターズ)
② ベストセラーズ
③ 2022
4冊

読速123キロそして40歳、普通ならその状態からプロ野球選手なんて目指さないのに自分の夢のために必死に取り組んでる姿が書かれており、本当に叶えたいことには諦めずに頑張ろうと思える本です。

※夢・プロ野球・読めない・40歳

5 『TWE ちゃんごとき雑談』

① 4月書局
② RADOKAWA
③ 2023
4冊

人気漫画の中心ですが、私たちが同じように悩んでいて、何気ない日常を通して、同じ人間なんだと感じることが出来ます。みんな一人一人がやんごとなき存在なのかもしれない、心ががツツとする一冊です。

※漫画・雑談・TWEちゃんごとき

6 『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』

① プレイデム
② 2023
4冊

希望という問題が様々な事件から読み取れる物語が、読めることがなかった新しい社会を明らかにします。私たち読者は目標と読者にとって、希望が希望という教育関係者という点も魅力のひとつと感じました。（橋本雪花）

※希望・希望・希望・希望

8 『日足は好日：「お米」が教えてくれた15のしあわせ』

① 山下清子
② 新潮社
③ 2008
4冊

この本を読むと涙を通して自然の豊かさだったり、人への思いやりを感じることが出来ます。お米のお話ではありますが、他のことにも通ずることが多く、多くの人に共感してもらえる内容だと思います。

※涙・お米・思いやり・自然・通ずる

9 『リトルの星』

① 水曜書局
② 2008
4冊

私はこの本に、いま当たり前に読んでいる日々がどれほど幸せなことかを教えてもらいました。読者の心を豊かにしてくれる素晴らしい本。読むから読者の心を豊かにしてくれる素晴らしい本。読むから読者の心を豊かにしてくれる素晴らしい本。

※幸せ・当たり前に読んでいる日々がどれほど幸せなことかを教えてもらいました。読者の心を豊かにしてくれる素晴らしい本。読むから読者の心を豊かにしてくれる素晴らしい本。

10 『熱狂宣言』

① 4月書局
② 2023
4冊

この本は読者だけでなく外食業界のトップを目指す社長ノンフィクションです。私はこの本で、仕事に情熱を注ぎたいと打ち勝ちたいこの社長の仕事や人生に対する考え方に胸をうたいました。

※情熱・仕事・外食業界・胸をうた

12 『あんぱん：赤正史』

① 赤正史
② 2012
4冊

2021年日本長者番付で首位に立つほどの大富豪である赤正史。そんな彼にも経歴時代は存在した。彼の壮絶な人生の全てが赤裸々に記されている。何事もありは別方であるということを知ることが出来る1冊である。（竹内俊二朗）

※大富豪・人生・経歴時代・別方

13 『生きながら火に焼かれて』

① スコア
② スコア・マガジン
③ 2008
4冊

ジョッキンタイトルと同じジョッキンな内容、でも読み終わると明日を生きようという気持ちで読む。中絶手術で人生に逆行して行っていた女性差別の真実を描いたノンフィクション作品。

※ジョッキンタイトルと同じジョッキンな内容、でも読み終わると明日を生きようという気持ちで読む。中絶手術で人生に逆行して行っていた女性差別の真実を描いたノンフィクション作品。

14 『宇年ビリーのギャルが1年で偏差値を40上げて慶応大学に入学した話』

① 河合出版
② RADOKAWA
③ 2013
4冊

どんなに主人公が馬鹿でも目から経路されても塾の坪田先生は彼女の素晴らしい部分を最大限に活かして指導したり真面目な部分を伸ばしたりして最後まで彼女と向き合い続けたその姿勢にすごく感動しました。

※馬鹿・指導・伸びる・感動

11 『いのちをいただく：福山あやちゃんがあなたに』

① 福山あや
② 2013
4冊

あれのように食べていた牛乳が飲めるまでの、ある程度の経緯。この話を聞いて、牛乳を飲む人の気持ち、いのちの大切さを知ることが出来ます。今まで以上に「いただきます」。この本の読みを感ずられます。

※あやちゃん・いのち・牛乳・飲む・大切さ・いただきます・感動

15 『ケーキの切れない絆少年たち』

① 吉井ブルー
② 2008
4冊

実際に絆少年団で働く作者が絆少年の教育に携わること、現地の絆少年団の活動が様々な場面に描かれた一冊である。私はこの本を通して絆少年が知らない世界を知ることが出来る大切さや、教育によって見える人との違いがあるということを感じた。（吉田未羽）

※少年団・絆少年・教育・絆少年団・絆少年

令和3年度 神戸大学附属図書館の特色ある活動報告

I.学修サポート

■ 電子ブックリクエストキャンペーン

10月～11月の2ヶ月間、学生にオンラインで電子ブックを試読・リクエストしてもらうイベントを実施しました。選定された図書は本学構成員が学内外からオンラインで読むことができます。



■ オンライン読書室

オンライン会議システムを使用して、学生・教職員と一緒に本を読んで交流するイベントを開催しました。今回は、図書のテーマ（「小説・エッセイ」「ノンフィクション」「英語多読」）を設定、また「あなたの本探します」として読んでみたい図書のリクエストを募集しました。

実施期間：9月6日（月）～9月10日（金）

のべ参加者数は、11名でした。



■ お昼休みトークイベント「外国語授業のその先に」

本学国際コミュニケーションセンター（SOLAC）と連携して、トークイベントを開催しました。総合・国際文化学図書館を会場とし、オンラインでも参加できるハイブリッド型で実施しました。SOLACの教員が日替わりで「外国語授業のその先にある楽しみ」を紹介し、内容が充実して面白かったなど大変好評でした。教員からの推薦図書の展示や音楽に関するデータベースの紹介などもありました。

実施期間：10月18日（月）～10月21日（金）

のべ参加者数は、132名でした。



■ 巡回展示 SDG s 推進室+V.School 推薦図書 ～SDG s と価値創造を知るための30冊～

令和3年10月から令和4年5月まで「SDGs推進室」「神戸大学バリュースクール（通称：V.School）」から推薦された図書を学内7つの館室を巡回して展示しています。貸出も可能です。



■ 学生チーム「ULiCS」の活動

－「THE ULiCS TIMES」Vol.9(4月)、Vol.10(10月)の発行

－【トークイベント】第1回 ULiCS 座談会_海外留学編の開催

Zoomによるリアルタイム配信で留学経験を話してもらうイベントを2月15日に開催し、ULiCS OBなど海外留学中の方にも参加いただきました。

－ ULiCS 文庫の展示

ULiCSのメンバーが、自由なテーマで図書を選び展示しています。



■ 来館できない利用者・遠隔授業への対応

ー郵送による資料貸出

本学在籍中の学部生・院生で来館が難しい方に対し、郵送での資料貸出を行っています。

ーチャットでの質問（利用案内/参考調査）の受付

非対面型サービスとしてオンラインチャットで文献の調べ方などの相談を受け付けています。



■ スマホ入館の正式導入

スマートフォンに表示されるバーコードで、入館ゲートを通過するスマホ入館のサービスを正式に導入しました。



II. 社会連携・情報発信

■ デジタルアーカイブでサンテレビジョンの震災取材映像を公開

阪神・淡路大震災の発生から 27 年を迎えるにあたり、震災文庫デジタルアーカイブにて、昨年に続いて、地元ローカルテレビ局である株式会社サンテレビジョンより提供された阪神・淡路大震災関連映像 98 件（約 80 分）を、1 月 14 日に公開しました。震災当日に撮影されたビデオテープ 6 本について、場面ごとに数秒から 4 分程度に分割したものを、撮影場所・時刻・内容等のデータとともに公開しています。公開にあたっては、本学人文学研究科地域連携センターの協力により、デジタルアーカイブ学会が作成した「肖像権ガイドライン」を参考に映像を確認、サンテレビジョンと協議を行いました。



■ デジタル資料展

「村上家文書の世界～近世×神戸×農村～」

附属図書館では毎年、図書館所蔵資料を利用した展示会を実施しています。しかしながら昨年度に続き今年度も通常どおりの実施ができなため、2015(平成 27)年度に開催した資料展の内容を、WEB 公開しました。当館を代表する郷土文書である「摂津国八郡花熊村村上家文書」（「村上家文書」）にスポットを当て、近世の神戸の一側面を紹介しています。

デジタル資料展 2021

デジタル資料展「村上家文書の世界～近世×神戸×農村～」
(2021年10月公開)

村上家文書の世界
～近世×神戸×農村～



左：福原庄美蔵庄屋（山崎徳富）

右：花熊村（現在の生田川）

1. 「SDGs」関連図書のブック展示

「SDGs」で掲げられている目標を1回につき一つずつ取り上げ、その目標に関連する図書の展示を順次行っている。

6月：1. 貧困をなくそう

7月：2. 飢餓をゼロに

11月：3. すべての人に健康と福祉を



2. 展示会の開催

図書館の展示スペースにて、図書館主催の展示会「正倉院模造復元品展」を実施した(10/25-11/6)。また、展示スペースは授業と連動した「仮名書法演習成果発表会」(8/12-8/19、3/1-3/11)や「百人一首と阿倍仲麻呂の歌」展(9/3-9/17)、「CRAFT MEETS DIGITAL」展(2/10-2/28)といった展示会でも活用された。



正倉院模造復元品展



CRAFT MEETS DIGITAL 展

3. 奈良女子大学の図書館との貸借無料化の実施

令和4年4月の奈良女子大学との法人統合による共同利用環境整備として、奈良女子大学の図書館所蔵資料を無料で取り寄せするサービスを開始した。(10月～)

4. 学生スタッフによる図書館ガイドの作成

図書館の学生スタッフが自身の勉強を進める上で役に立った図書館の使い方、図書の探し方、おすすめの図書などをまとめた図書館ガイドを専修ごとに作成した。図書館のホームページで、幼年教育・美術教育・文化遺産教育・書道教育の4専修分を公開している。他の専修のガイドについても順次、追加していく予定である。

5. 教育実習期間の日曜開館の実施

6月と9月の教育実習期間において日曜開館を実施した。その後、教育実習生を対象として日曜開館についてのアンケートを行い、利用実態や要望について調査を行った。調査結果をもとに、令和4年度も日曜開館を行う予定である。

6. 授業関連図書コーナーの整備

シラバス掲載図書と各学問分野の初学者が最初に読んでもらいたい図書を揃えた授業関連図書コーナーについて、図書館運営委員会委員の教員の協力のもと、令和3年度は数学教育・音楽教育・家庭科教育関連図書に「初級」「中級」といったレベル付けを実施した。

レベル付けされた図書には「初級」「中級」等のシールが貼られ、一部の本の帯には教員からの推薦コメントを掲載した。また、レベル付け図書についてブックガイドを作成し、学生に配布している。



7. 大学の特色を踏まえた学習資料の充実化

本学の特色ある教育研究の一つである「SDGs/ESD」関連図書について、担当教員の協力を得て重点的に整備した。

8. ブックハンティングの実施(オンライン・店頭)

例年実施している、学生によるブックハンティング（選書ツアー）を、令和3年度は6/21-6/30に書店ウェブサイトを使用したオンライン形式で、11/17には実店舗の店頭で実施した。

アンケートによると、オンライン・店頭双方にそれぞれメリットがあり、両方の開催を希望する意見が多かったため、令和4年度も両方の開催を継続する予定である。

ブックハンティング（選書ツアー） 参加者募集

🐻🐻

📅 日程：2021年11月17日（水）13:30-17:00
（終了後、適宜解散）

📍 場所：ジュンク堂書店 難波店（交通費支給あり）

👥 募集対象：本学学生（学部生、大学院生）

👤 募集人数：7名程度（先着順）

👤 一人につき3万円上限で図書を選定できます

📖 図書到着後、1〜2冊を選んで展示用のポップ作成をお願いします

参加希望の方は、「お名前・専修・学年・学号番号」を明記の上
奈良教育大学図書館（lib-service@nara-edu.ac.jp）へ
11月9日（火）までにお申込みください。

※応募者多数の場合は早期に締め切ることがあります。図書館ホームページを随時確認の上、早めにお申し込みください。

ブックハンティングとは…

学生のみならず、「家族の図書館に属したい図書」を書店で直接見たいのです。

「こんな本があったらいいな」「こういう本があったら役に立つな」と感じることがあるかもしれません。

授業の参考文献、研究や成績の向上に必要な図書、教育実習や教職になるための参考になる図書など、大学図書館に属したい図書を見つけてください。

ブックハンティングで、自分が読みたい本や、現在・将来の教員生活に読みたい本を見つけてください！

令和3年度奈良女子大学特色ある取り組み

I 奈良教育大学との現物貸借無償化開始(10月より)

令和4年4月の法人統合に先立ち、両大学共同利用環境の整備として現物貸借送料を無償化しました。

※ 配送料金(往復)は、依頼者の所属機関が負担
(NACSIS-ILLを利用した相殺処理)

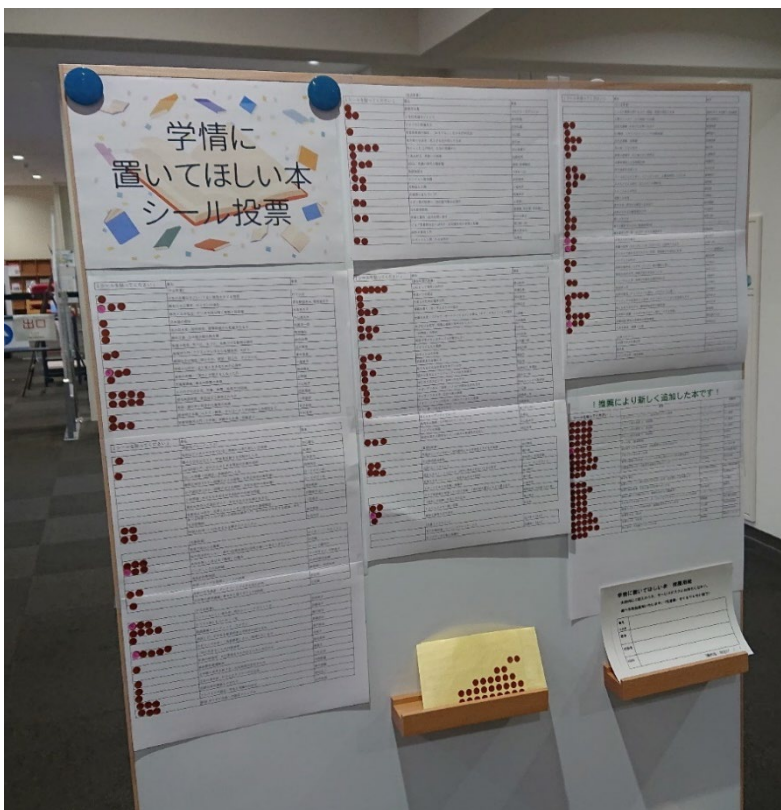
＊新型コロナウイルス感染症利用者サービス対応(2021.11.25現在)

- ・開館は通常通り(全閲覧席にパーテーションを設置したため間引きなし)
- ・グループ学習室は定員を半分にしてグループ学習利用を再開
- ・閲覧席には番号を付け、行動を追跡しやすくしている
- ・センター所蔵資料の複写・郵送を送料大学負担で実施(複写料金は実費、後払い)
- ・センター所蔵資料の郵送貸出を実施、送料は大学負担(返送料は自己負担)
- ・他機関から取り寄せた文献複写の転送サービス(送料大学負担)
- ・学生用プリンター(ポイント制)のポイント追加(100pt/月→200pt/月)は継続
※1枚1pt(両面印刷でも1pt)
- ・学外者の利用を事前予約限定で再開

II 学生選書(シール投票)

学生選書企画として、職員が選定した購入図書候補リスト(200冊強)の中からシール投票により選書を行い、約80冊の図書を購入しました。

開始から3日にして10票以上獲得するものもあり、リストにない本の推薦も例年より多く挙がるなど関心の高さがうかがえました。



III 企画展示

昨年度は改修工事により中断していた各学部（学系）輪番制による図書展示を再開、学術情報センター2F 展示ホールにて「薬師寺金堂と東大寺法華堂の仏像」（通算第 32 回）を開催しました（2021 年 4 月～2022 年 3 月）。



IV 学生スタッフによる企画展示

学術情報センター2F 展示コーナーにおいて、「奈良にまつわるエトセトラ」「非常事態と心理」などのテーマで、感染症の歴史等について研究する教員からの協力を得ながら LiSA(学生スタッフ)と職員が選んだ図書を展示しました。



V ブラインドブック展示

学術情報センター2F 展示コーナーにおいて、「愛」をテーマに、LiSA(学生スタッフ)と職員が選んだ図書を、目隠し用のカバーで包み、推薦文の帯を付けて展示しました。



令和4年4月18日

1. 新しい形でのガイダンス・イベントの実施

- ・和大図書館ビギナーズ（Google フォームを使い新たにゲーム感覚で取り組めるガイダンス）
【入館編】参加 271 人、【レポート準備編】255 人、【検索実習編】（授業内で実施）171 人

ガイダンスの取り組みについて、私立大学図書館協会東地区部会研究部 2021 年度研修会（10 月 25 日、オンライン開催）にて発表を行った。

- ・スカベンジャーハント 2021 in 和大図書館（4/12～6/30）
図書館内を探索しながらクイズに答えるゲームイベント（参加 44 人）

2. 大学院生 LA（ラーニングアドバイザー）ミニ講習会 2021 の開催

- ・ちょっと役立つ Word 講習会（7/29）
- ・大学生のための自己コントロールと自己管理の仕方（8/11）※オンライン
- ・大学生のためのメールマナー（11/18）※オンライン

3. 和歌山大学オープンアクセス方針の制定

和歌山大学において生産された研究成果を広く学内外に公開することにより、学術研究のさらなる発展に寄与すること、その成果を社会に還元することを目的として、「和歌山大学オープンアクセス方針」を制定した。（11/12）

4. 地域の図書館との連携

- ・学校図書館支援のため学校関係者への研修機会を提供した。
（講師：渡部幹雄（元図書館長・本学名誉教授）
九度山町オンライン研修会「学校図書館と子どもの読書、くどやま森の童話館等について」
（12/8）
那智勝浦町研修会「学校図書館と子どもの読書について」（12/9）
- ・図書館フォーラム「館種を超えて連携する図書館－海外の事例と和歌山の取り組み」を開催し、図書館間の連携にかかわる取り組みについて考える機会とした。
- ・これまでの取り組みを「和歌山県内における図書館の連携－和歌山大学図書館の取り組み－」としてまとめた。

5. 「図書館機能向上計画 2022～2027」の策定

令和3年11月～12月に全学の学生を対象にアンケートを実施し、学生の図書館機能に対する利用度、満足度、満足度及び要望を「資料」「設備」「サービス」の別に把握し、その改善・向上を図ることを目的として策定した。

2021(令和3)年度奈良先端科学技術大学院大学附属図書館の特色ある活動の報告

1. 新型コロナウイルス感染防止対策について

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、近隣府県に発令された政府の緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置および本学の「NAIST 活動制限指針」に則し、2021 年 4 月 22 日から 6 月 20 日まで、8 月 2 日から 10 月 3 日まで、2022 年 1 月 27 日から 3 月 21 日までの 3 期にわたり、学外者の利用を制限した。

現在もカウンターにパーテーション設置、ドアの開放、1 日 2 回の卓上アルコール清掃、椅子の削減、シアターラウンジの完全予約を継続し、感染の拡大防止に努めている。

2. 博士論文に DOI 付与、遡及入力完了

本学リポジトリ naistar で公開している博士論文への DOI (Digital Object Identifier)遡及入力を完了した。

3. 知の森コーナー

学内から募集したテーマや図書館職員が設定したテーマに沿った資料を選び、「知の森コーナー」として展示している。令和3年度の知の森コーナーのテーマは以下のとおり。

第33回からは展示スペースを図書館入り口により近い場所に変更し、DVD や電子ブックを積極的に取り入れるなど、展示内容の充実を図っている。



令和3年度知の森コーナー展示企画一覧

実施回	実施時期	テーマ
第31回	2021 年 3-8 月	映画で語学
第32回	2021 年 8-12 月	バリアフリー
第33回	2021 年 12-2022 年 3 月	美を科学する
第34回	2022 年 3 月-	スラヴを知る 世界を知る

4. 附属図書館ニュースの発行

図書展示や講習会、図書館のサービス紹介等のお知らせをまとめた附属図書館ニュース「知の森へようこそ」を「知の森コーナー」の更新のタイミングにあわせて、年3回送信した。

2021 年度 国際日本文化研究センター図書館活動報告

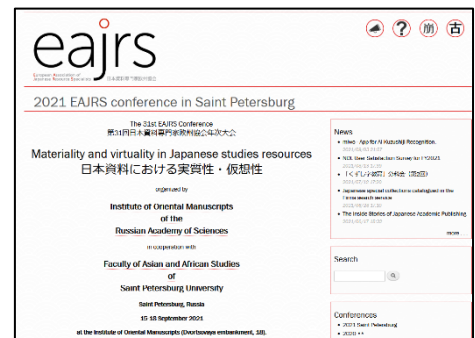
1. 『絵巻物』データベースが IIIF に対応

2021 年 6 月より、日文研が所蔵する「地獄草紙絵巻」「鳥羽絵巻」「長谷雄草紙」「寛永行幸図巻」「百鬼夜行絵巻」などの高精細デジタル画像が、デジタル化画像を相互運用するための国際的枠組みである IIIF (International Image Interoperability Framework) に対応させた。これにより IIIF で公開された画像同士を、その公開元にかかわらず、IIIF 対応ビューワに並べて表示させたり、自分用のコメントやタグを付けたりすることができるようになった。



2. EAJRS (日本資料専門家欧州協会) 年次集会 2021 への参加

2021 年 9 月 15 日から 18 日の日程で、ロシアのロシア科学アカデミー東洋学研究所においてハイブリット形式で開催された「第 31 回日本資料専門家欧州協会 (EAJRS) 年次集会」に、日文研図書館から、江上敏哲、菊谷智史の 2 名の職員がオンラインで参加した。ワークショップで機関の役割・サービスの紹介をおこなったほか、各国の専門家に対する積極的な広報と情報交換・ネットワーク構築に努めた。また、関野樹情報管理施設長が「歴史地名データの構築と連携」という演題で発表をおこなった。



3. 「艶本資料」データベースの年齢制限を解除

「艶本資料」データベースの利用については、これまで「18 歳以上」という年齢制限をもうけていましたが、艶本・春画をめぐる社会的環境が変化してきたことを踏まえ、より多くの人々に活用してもらうために制限の解除を行うことにし、2021 年 9 月 30 日をもって「艶本資料データベース」の利用に関する年齢制限を解除し、10 月 1 日以降は手続き不要で利用できるようになった。



4. 高島華宵大正ロマン館所蔵近代日本大衆雑誌図像データベース公開

2022 年 3 月、日文研大衆文化研究プロジェクト・大正イマジュリィ学会・高島華宵大正ロマン館との連携による研究推進活動の一環として構築された「高島華宵大正ロマン館所蔵近代日本大衆雑誌図像データベース」を新規公開した。このデータベースでは、明治末期から昭和初期に刊行された大衆雑誌 37 種 405 冊のうち、表紙・目次・口絵・裏表紙などのメタデータとその IIIF 画像約 2000 点をインターネット公開している。[\(https://iiif.nichibun.ac.jp/TKB/\)](https://iiif.nichibun.ac.jp/TKB/)



5. 研究成果の公開

日文研が所蔵する貴重な資料群の研究結果を一般向けに公開しているデータベースに、新たに収集された資料も電子化し、追加した。

公開データ追加（2021 年 4 月 1 日から 2022 年 1 月 31 日まで）

- 中世禅籍テキスト（継続史料のテキスト追加 1 件）
- 艶本資料（6 件）
- 風俗図会（14 件）
- 日本関係欧文貴重書（5 件）
- 古事類苑全文（708 頁分）
- 鯰絵コレクション（3 件）
- 浪曲 SP レコードデジタルアーカイブ（レコード音源 117 タイトル）
- 摂関期古記録（新規公開史料 1 件、継続史料のテキスト追加 3 件）
- 怪異・妖怪画像（43 件）
- 吉田初三郎式鳥瞰図（117 件）

6. 美術館・博物館等への図書館所蔵資料出展

- 「小原古邨」展（石川県立歴史博物館、2021 年 4 月 24 日～6 月 27 日）Catalogue of antique Chinese porcelains and pottery(N/7336/Ma 003999471) など 2 点
- 「身体イメージの創造—感染症時代に考える伝承・医療・アート」（大阪大学総合学術博物館、2022 年 1 月 17 日～2 月 12 日）「和蘭全軀内外分合図」 など 30 点

7. 日文研オンライン一般公開での図書館所蔵資料の展示

2021年11月20日から日文研ウェブサイトにて開催された「日文研オンライン一般公開」にて、所蔵資料のオンライン展示を行った。今年的一般公開のテーマである「スポーツと文明ー近代東アジアにおける展開を中心にー」にあわせて、写真・絵葉書からみる戦前のスポーツとして、およそ100年前に開催された「極東選手権競技大会」等に関する写真・絵葉書をオンラインで公開した。



8. 電動集密書架の増設

購入・寄贈受入による図書資料の増加、特殊資料・マルチメディア資料等の研究資源の多様化とともに、収蔵スペースの狭隘化が問題となってきたため、今後、「収集量が増えることが予想されるため、必要となる収蔵スペース確保に備え第3図書資料館（映像音響館）の電動集密書架設置等を計画的に進める」という第3期中期目標期間の設備マスタープランにより、2022年1月28日、第3図書資料館（映像音響館）2階に電動集密書架の設置工事が完了した。これにより、収容可能冊数が約128千冊増えて約667千冊となった。



以上

令和3年度 国立民族学博物館図書室活動報告

1. 韓国国立中央図書館によるデジタル化資料送信サービスの利用開始

韓国国立中央図書館デジタル化資料送信サービスの利用について、館内利用者を対象にサービスを開始した。同図書館における電子化事業に際して、著作権の保護期間が終了していない資料の提供を行うため、民博図書室はパートナー図書館として利用申請を行い、館内の特定端末にて、利用申請に基づく電子画像の閲覧・プリントアウトのサービスを提供する。

2. 研究業績棚の増設

民博図書室は、民博教員の在籍期間中における業績資料を個人単位に配架した研究業績棚を民博創設時（昭和52年）に設置、研究者からの業績を収集すると共に展示している。40年以上経過する中で、研究業績棚の狭隘化を受けて、同棚の増設を行い、民博初代からの歴代館長の業績資料について新しい研究業績棚に移し、図書室来室者が一覧できるようにした。

3. 書庫2層電動集密書架の部分改修

書庫の電動集密書架について、設置後老朽化していたことから部分改修を行った。

4. 資料貸付

令和3年9月 国立アイヌ民族博物館特別展／国立民族学博物館巡回展「ビーズアイヌモシリから世界へ」、貴重図書1点を貸付。

令和3年9月 龍谷大学龍谷ミュージアム 秋季特別展「アジアの女神たち」、図書1点を貸付。

令和3年10月 北海道博物館／群馬県立歴史博物館 巡回展 令和3年度アイヌ工芸品展「アイヌのくらしー時代・地域・さまざまな姿」、図書2点を貸付。

5. 新型コロナウイルス感染症対策

大阪府への緊急事態宣言発出（令和3年4月25日）に基づき、民博活動制限の変更に従って、図書室は一般利用者へのサービスを停止した。但し、館内者へのサービスは継続とした。その後、10月1日に緊急事態制限は解除となり、翌日2日から一般利用者の入室を再開した。なお、現在も図書室の一部エリアについて、利用停止を継続中である。